

株主との建設的な対話に関する基本方針

(1) 基本的な考え方

当社では、「ご縁がある皆様に幸せにする」という経営理念のもとで、ステークホルダーの利益を重視するとともに、それを毀損するような活動およびそのリスクを排除し、株主利益に資する必要な情報を適時・適正に開示することに努めます。

この考えに基づき、当社では IR 活動を通じ、株主・投資家等に対して経営戦略、財務情報から非財務情報に至る幅広い情報を適時・適切に開示し、株主・投資家等と建設的な対話を継続的に実践することで、中長期的な企業価値向上に資するように努めます。

(2) IRの推進体制

当社では、代表取締役社長はじめ多くの経営幹部が株主・投資家との対話に参画しております。またIR活動を有効に機能させるために担当部署として秘書・広報部IR・SRチームを設け、経理、法務、広報など関連部署との緊密な連携を取るほか、グループ内企業との有機的連携も図っております。また、海外の投資家・アナリスト対応の窓口としても秘書・広報部IR・SRチームが担当しております。

(3) 株主との面談に関する取組み

個別の面談については、管理担当役員の統括のもと、株主の属性や面談の目的などを考慮したうえで、合理的な範囲で、代表取締役社長をはじめとする経営幹部または取締役（社外取締役を含む。）の参加を基本とする対応を検討しております。

また、国内外投資家を個別に訪問するロードショーの実施、海外におけるサービスセクター・カンファレンス、国内外のその他のカンファレンス等への参加など、様々な機会を積極的に捉え、株主・投資家と経営者との対話の機会を最大化するべく努めます。

秘書・広報部IR・SRチームは、グループ内企業および社内部署から必要な情報を継続的に収集し、開示資料やウェブサイトにおける表現やメッセージを工夫し、株主・投資家との面談の充実に努めます。

(4) 個別面談以外の対話に関する取組み

当社では、株主総会を株主に対して説明責任を果たす場と位置づけ、株主の議決権行使を円滑にする方策の実施とともに、株主総会当日も「コネクトーク」と題した株主との建設的な場を設けて、当社の事業、経営方針、経営計画への取り組みなどに関して、株主への十分な説明と質問への回答に努めています。

また、アナリスト・機関投資家向けの定期的な決算説明会やカンファレンスコール、当社ウェブサイト上でのIR資料の掲載など、適時かつ充実した情報開示を行っております。

(5) 社内へのフィードバック

また、IR活動等を通じて得た株主・投資家・アナリストからの意見や要望等について、管理担当役員に情報を集約するとともに、経営会議や取締役会にて報告し、企業価値向上に向けた議論に活用しております。

(6) インサイダー情報管理

インサイダー情報を適切に管理するために、管理担当役員が情報取扱責任者としているほか、「内部情報管理規程」を制定し、全役職員に周知徹底しています。また、決算情報に関して株主・投資家との対話を控える「沈黙期間」を設けております。

(7) 株主構造の把握

定期的に実質株主判明調査を実施し、株主構造の把握に努めております。

以上